



初めての BMW iX

目次

BMW iX

モビリティの未来に向けた道しるべ.....2

エクステリア・デザイン

駆けぬげる喜びの新時代に向けた明確なシグナル.....5

エアロダイナミクスとインテリジェント・ライトウェイト構造

フォルムと構造に見る革新性 12

インテリア・デザイン

生活の質を高め、健康で安心な状態を 楽しむため、より大きなスペースを確保 16

駆動力、充電容量および走行性能、エネルギー消費量、排出ガスおよび航続距離などのデータはすべて暫定値です。

燃料消費、CO₂排出量、電力消費および航続距離に関するデータは、規定の測定プロセス VO (EU) 2007 年/715 に従いそれぞれ適用される版により算出されます。これらの値はドイツにおける基本装備の車両に対するもので、数値範囲はホイール/タイヤの種類および装着されたオプション装備品による差異を考慮したものであり、構成プロセス中に変化する場合があります。

これらのデータは、既に新 WLTP テスト・サイクルに基づいて測定されています。これらの車両については、税その他の CO₂排出量が考慮される課金の評価に際して、ここに示した値とは異なる数値が該当することがあります（国別法規によって異なります）。

新車に関する公式の燃料消費率、CO₂排出量、電力消費に関するさらに詳細な情報は「新型乗用車の燃料消費率・CO₂排出量・電力消費率に関するガイドライン」（Leitfaden über den Kraftstoffverbrauch, die CO₂-Emissionen und den Stromverbrauch neuer Personenkraftwagen）に記載されています。この資料はすべての販売店、DAT（Deutschen Automobil Treuhand GmbH、所在地: Hellmuth-Hirth-Str. 1, 73760 Ostfildern-Scharnhausen、および <https://www.dat.de/co2/> で無料でご利用いただけます。

BMW iX

モビリティの未来に向けた道しるべ

ビジョンが現実となり、BMW Vision iNEXT（ビー・エム・ダブリュー・ビジョン・アイネクスト）がBMW iX（ビー・エム・ダブリュー・アイエックス）になる。BMW グループは、市場導入まであと1年に迫ったBMW iXの最新の開発状況を公開しました。正確かつミニマリスティックなデザインによって、ドライビング・エクスペリエンス、インテリアの心地よさ、そしてクルマと乗員との関係を定義し直す全く新しいクルマ「BMW iX」は、自動車の将来を見据えた画期的な世代の最初のモデルとして登場します。

2021年の後半に市場導入開始予定のBMW iXは、モビリティの新時代の到来を告げるクルマであり、デザイン、サステナビリティ（持続可能性）、駆けぬける喜び、多用途性、ラグジュアリーといったテーマに焦点を当てて再解釈したモデルです。BMW iXは、BMW グループのモジュール式で拡張性のある新しいシステムをベースに開発した初のモデルであり、当初から純粋に電気自動車として考案されました。このモデルは、BMWで人気の車両コンセプトであるスポーツ・アクティビティ・ビークル（SAV）を定義し直したモデルです。

BMW iXは、電動化の分野での最新のイノベーションによって、より「人」を中心に据えた自動運転とコネクティビティによるモビリティ・エクスペリエンスを提供します。そのために、このクルマのデザインを徹底的に突き詰めました。BMW iXは、ドライバーとパッセンジャーのための生活の質（QoL）や健康と安心を提供する場所として設計されています。明確で虚飾を抑えたデザインのエクステリアは、乗員のニーズに一貫して向き合う新しいモビリティの形を表現しています。インテリアはドライブの時間を有効に使うための先進的なオプションを提供し、それにより、リラックスできて安心かつ安全な、新しい形のラグジュアリーを享受することができます。

「BMW グループは、常に自らを再開発するよう努力しています。これは当社の企業戦略を構成する中心的な要素です。」BMW AG 取締役会会長のオリバー・ツィプセはこのように語り、さらに「BMW iXは、こうしたアプローチを『極めて濃縮されたフォルム』で表現しています。」と続けました。

未来のワークショップ BMW i で生まれた BMW グループの新しいテクノロジー・フラッグシップ

BMW iXのデザインとテクノロジーは、多くの点で斬新なドライビング・エクスペリエンスを生み出す前提条件となる包括的パッケージを形成しています。これによりパーソナル・モビリティの変革を使命とするBMW i ブランドの特徴を包括的に体現しており、未来のワークショップとしての、またイノベーションを推進する企業としてのBMW グループの中心的な役割を担っています。最初から電気だけを動力源として考案

された BMW i3 は、持続可能な都市型モビリティの実現に向けて未来を見据えた踏み台となっています。プラグイン・ハイブリッド・モデルである BMW i8 の先見性のあるデザインは、プレミアム・スポーツ・カー・セグメントにおける最先端の駆動技術の模範となっています。

BMW iX は、BMW グループの新しいテクノロジー・フラッグシップとして 2021 年下半期に BMW ディングルフィン工場生産を開始します。このモデルは、「デザイン」、「自動運転」、「コネクティビティ」、「電動化」、「サービス」といった戦略的イノベーション分野における BMW の最新の技術開発に焦点を当てています。さらに、BMW iX の車両コンセプトやデザインは、持続可能性に対するあらゆる取組みに基づいています。これらは、最適化された空力特性、インテリジェント・ライトウェイト構造、天然素材やリサイクル素材の包括的な利用など、とりわけ先進的なラグジュアリー表現や健康的で安心感のある乗車空間の創出に寄与しています。

第 5 世代の BMW eDrive は卓越した効率性と優れた航続距離を実現

2 基の電気モーター、パワー・エレクトロニクス、充電技術、高電圧バッテリーを含む第 5 世代の BMW eDrive テクノロジーが、最大限の効率性を保証します。持続可能な生産プロセス、つまりレア・アース分野の貴重な原材料を使用することなく BMW グループが開発・製造するこの駆動システムは、最新の計算値によると出力は 370kW/500PS を超え、BMW iX を静止状態からわずか 5 秒足らずで車速 100km/h まで加速させる力があります。

明確な目標は WLTP テスト・サイクルで 100 キロメートル走行あたりの複合モード消費電力を 21kWh 未満にすることであり、これは同セグメントでも著しく低い数値となります。最新世代の高電圧バッテリーの総エネルギー量が 100kWh 以上あれば、WLTP サイクルで 600 キロメートルを超える航続距離を実現できます。これは、EPA のテスト・サイクル FTP-75 に換算すると 300 マイル（482.8 キロメートル）以上に相当します（走行性能、エネルギー消費量、航続距離に関するすべてのデータは車両のこれまでの開発状況に基づく推定値です）。

DC 急速充電：10 分以内の充電で 120 キロメートル以上の航続距離を実現

BMW iX の新しい充電技術により、最大 200kW の DC（直流）急速充電が可能です。これにより、残量約 10 パーセントのバッテリーを 40 分以内で 80 パーセントまで充電できます。また、10 分以内の充電で 120 キロメートル以上の走行距離に匹敵するエネルギーを蓄えることができます。出力 11kW のウォールボックスを使う場合、残量ゼロの高電圧バッテリーを満充電にするのに必要な時間は 11 時間以内です。

BMW iX のバッテリーは長期的資源リサイクルの一部として設計されており、極めて高いリサイクル率を実現しています。バッテリー・セルおよび高電圧バッテリーの生産に使用するすべての電力は、再生可能エネルギーのみを使用しています。

「テクノロジーは、最大の難関に対処するために必要な進歩を後押しします。これは特に気候保護について言えることです。」オリバー・ツィプセはこのように述べ、さらに次のように続けました。「私たちは、真に優れたモビリティは持続可能でなければならないと確信しています。BMW グループにとって、責任のないプレミアム・モビリティはあり得ないのです。」

自動運転のさらなる進歩を支える新たなテクノロジー・キット

BMW iX に初めて採用した新たなテクノロジー・キットは、自動運転およびデジタル・サービスの分野に飛躍をもたらすプラットフォームを提供します。例えば演算処理能力では、従来モデルの 20 倍のデータ量を処理できます。これにより、各種の車載センサーからのデータを処理する能力は従来の約 2 倍となります。

「BMW iX のテクノロジーによって、私たちは自動車業界の新たな基準を打ち立てます。BMW iX はデータ処理能力が向上し、現行ラインアップにおける最新モデルよりもさらに高性能なセンサー・テクノロジーを備えています。また 5G に対応し、最新の改良型自動運転およびパーキング機能を装備しており、高性能な第 5 世代の電気駆動システムを採用しています。」BMW AG 開発担当取締役のフランク・ウェーバーはこのように語っています。

「適用されたすべてのイノベーションは、それぞれが素晴らしいものです。しかし、それらが一緒になってこそ本当の違いが生まれるのです。」オリバー・ツィプセはこのように説明し、「私たちは、技術の進歩を、その複雑さと相互依存性のすべてにおいて、刺激的で持続可能な製品へと変化させます。」と続けました。

新しいドライビング・エクスペリエンスのための新しいデザイン

BMW iX は、サステナビリティ、駆けぬける喜び、プレミアムであることの意味を BMW が改めて定義し直し、未来の世代の自動車へ至る道を示しています。その先駆的キャラクターは車両のデザインに明確に表現されており、親しみやすさ、リラクゼーション、自主性を特徴とする新たなドライビング・エクスペリエンスの基礎を形成します。

「BMW iX は、新しいテクノロジーに極めてモダンで感情に訴えるデザインを施すことができることを示しています。このクルマは技術的にはとても複雑ですが、その印象は極めて明確でシンプルです。」BMW グループ・デザイン本部長のエイドリアン・ファン・ホーイドンクはこのように語り、「BMW iX は、必要なときにのみ車両のインテリアジェンスを利用でき、人々が安心して過ごすことができる移動可能なリビング・スペースを提供します。」と続けました。

エクステリア・デザイン

駆けぬける喜びの新時代に向けた明確なシグナル

BMW iX は、現代的な SAV のフォルムを持ち、全く新しい控えめなデザイン言語によってその姿を表現しています。エクステリアの数少ない正確に描かれたラインによって形作られたモノリシック（一枚岩のよう）なデザインは、このクルマの力強さ、頑丈さ、そして明確な主張が表現されており、ローカル・エミッション・フリーを実現するクルマとしての BMW iX の機能性と、日常的に使用するだけでなく旅に出たときにも快適に感じることでできるスペースに焦点を当てていることを示しています。

ここには、BMW iX の特徴ある存在感によって、新しい形の卓越性を表現しています。BMW iX は四輪駆動のピュア EV モデルであり、サステナビリティ（持続可能性）を強調した高級感あふれる広々としたインテリア・スペースと、自動運転の先駆者としての革新的なテクノロジーを備えたクルマです。

パワフルな SAV スタイリング、サーフェス・デザインを削減

BMW iX のエクステリア寸法は、BMW X5 の機能性、BMW X6 のダイナミズム、そして BMW X7 の表情豊かな外観を兼ね備え、BMW ブランドのラージ・サイズ SAV のパワフルなスタイリングを個性的に再解釈したことによるものです。BMW iX は全長および全幅が BMW X5 に、また流れるようなルーフ・ラインによってその全高は BMW X6 に匹敵する一方、ホイール・サイズは BMW X7 を想起させます。正確に 3 メートルのホイールベースとフロント・アクスルとリヤ・アクスルのワイドなトレッドが、ロング・ドライブでの上質な快適性とスポーティなコーナリング特性を両立させるサスペンション・セットアップに理想的な前提条件を提供します。また、このモデル独自のデザイン言語で構成されるエクステリアは、航続距離に好影響をもたらす空力特性も向上させています。

BMW iX のパワフルな外観は、簡素化されたサーフェス・デザインによっても強調されています。最小限のキャラクター・ラインとゆとりを持たせて構成されたサーフェス・デザインが、自信に満ちたオーラを放ちます。くっきりとしたライン、クリアな構成、ホイールハウス周りのほぼ長方形のアウトラインが、モノリシック・デザインのボディを印象づけています。デザイン言語の主張を最小限に抑えたことで細部のデザインを際立たせ、BMW iX の洗練されたキャラクターやブランド・アイデンティティ、優れた空力特性を強調しています。

フロント・エンド：表情豊かな縦長のキドニー・グリルをインテリジェンス・パネルに活用

BMW iX のフロント・エンドのデザインは、表情豊かな存在感を感じさせます。特徴的な BMW キドニー・グリルと同じく特徴的なツイン・ヘッドライトの組み合わせによって生み出される BMW 特有の外観が、先駆的なスタイルで再解釈されています。フロント・エンドの中央には表情豊かな縦長の BMW キドニー・グリルがそびえ立って

います。グリル表面には、3D ピラミッド・パターンがあしらわれています。

BMW iX の電気駆動システムはわずかな量の冷却用のエアしか必要としないため、BMW キドニー・グリルはクローズド構造になっており、その代わりにインテリジェンス・パネルとしてデジタル機能を受け持ちます。カメラ、レーダーといった各種のセンサーは透明な表面パネルの背後に配置され、BMW キドニー・グリルと違和感なく一体化されています。センサー用のヒーター・エレメントやクリーニング・システムも、キドニー・グリルの前面に一体化されています。

ハイテク構造およびインテリジェント・モビリティの象徴

ドイツ・ランツフートにある BMW グループのライトウェイト・デザイン&テクノロジー・センター (LuTZ) で開発・生産される BMW iX のキドニー・グリルは、高度な技術力を駆使してデザインされたインテリジェント・モビリティの象徴です。キドニー・グリルの背後に設置されたレーダー・センサーの正確性を最大限に確保するため、このパーツの製造時には真空状態で行うナノメーター・レベルのコーティング・プロセスを採用しています。これは、気化処理によるレーザー技術と高真空下でのプラズマ衝撃法を使用して 2 色仕上げと視覚的な 3D 効果を生み出しています。BMW iX のキドニー・グリルを製造するため特別に開発されたレーザー工法を使用し、材料と層の厚みから正確に定義された配合率によりレーダーの性能を最適化させることで、高級感があり、かつ特徴的な外観を実現しています。

さらに、その上にポリウレタン・コーティングを重ねることで BMW キドニー・グリルの表面を保護しています。表面の自己修復効果により、小さなかすり傷などは室温で 24 時間以内に、温風下では 5 分間で修復されます。

自動運転機能の先駆者

自動運転への道を切り開く BMW iX にとって、BMW のキドニー・グリルは先進的ドライバー・アシスタント・システムのための革新的かつ多機能なハイテク・インターフェースという新たな役割を担うことになりました。今日、BMW グループの現行モデルに搭載されているドライバー・アシスタント・システムは、既に同セグメントの競合モデルと比べて卓越した機能性で際立っています。BMW iX に初めて搭載される新たなテクノロジー・キットは、これらのシステムを長期的に継続開発するためのプラットフォームとなります。高い演算処理能力、極めて高性能なセンサー・システム、人工知能 (AI) およびデータ駆動型開発の助けを借りた継続的な最適化により、快適性と安全性に関して、将来さらに広範囲にドライバーを支援する新たな可能性を提供します。さらなる新規開発事項や追加機能はリモート・ソフトウェア・アップグレードで後から車両に転送することができるため、車両およびソフトウェアを常に最新技術の状態に保つことができ便利です。

「BMW iX は自動運転機能の先駆者であり、新しいテクノロジー・キットによる自動運転およびパーキング機能を提供する BMW グループ初のモデルとなります。」BMW AG

の開発担当取締役フランク・ウェーバーはこのように説明し、「演算処理能力と卓越したセンサー技術を備えたこのテクノロジー・キットには極めて大きな可能性があり、機能を次々と増やすことができます。」と続けました。

マトリックス機能と BMW レーザー・ライトを備えた LED ヘッドライト

路面の照明は、BMW が量産モデルに採用した中で最もスリムなヘッドライト・ユニットが受け持ちます。このヘッドライトは、BMW の特徴である 4 つ目フェイスの新しいデザインとして、とりわけミニマリスティックなバリエーションです。新デザインのデイ・ランニング・ライトは、ヘッドライト・ユニットの上辺に二次元的なストリップを配してエクステリアのモノリシックなデザイン言語とも調和させています。これによりまったく新しい外観が生まれ、フロント・エンドの堂々とした存在感が強調されます。このデイ・ランニング・ライト・ストリップは、ターン・インディケーター役も担っています。

BMW iX にはフル LED ヘッドライトが標準装備されています。スモーク・ガラスで覆われたヘッドライト・ユニット内のかなり奥に配置されているため、ロービームとハイビームの両方を受け持つ光源は点灯したときにしか見えません。

オプションで最新世代の BMW レーザー・ライトを入手可能です。これはマトリックス機能付きアダプティブ LED ヘッドライトに新たにレーザー・ライト・モジュールを組み合わせたシステムです。このヘッドライト・バリエーションでも、ヘッドライトの外側と内側の両方の光源でロービームとハイビームの機能を提供します。BMW セレクティブ・ビーム付きハイビームのマトリックス機能は、視認性を高めると同時に他の道路利用者を眩惑させないように機能します。

BMW iX の立体感が際立つエンジン・フードは、ヘッドライトと BMW キドニー・グリルに直接接しています。エンジン・フード上のすべてのラインは、BMW キドニー・グリルとその上に配置された BMW ロゴに向かってダイナミックに伸びています。このエンブレムは機能性コンポーネントで、フロントおよびリヤのウィンドウ・ウォッシャー・システム用ウォッシャー液の補給用フィルター・ネックになっています。エンブレムを軽く押すと開き、補給後は元通りに閉じることができます。また、このボンネットにはユーザーが開閉するための操作メカニズムが用意されていません。ボンネットの下にある駆動システムやパワー・エレクトロニクスは、ワークショップでのみアクセスできます。

サイド・ビュー：クリアなサーフェス、正確なライン・マネジメント

BMW iX のサイド・ビューはデザイン言語を最小限に抑え、純粋に電気のみで駆動される現代的な SAV デザインの特徴を強調しています。現代的でミニマリスティックな造形のサーフェス構成は、数少ない正確に描かれるラインによって明確化され、アスリートを思わせるボディを形作っています。印象的なのは、前後のホイールハウスの輪郭がほぼ長方形になっている点です。これは BMW X モデル特有のデザインの特徴を受

け継いだもので、このモデルの力強いスタンスを強調しています。

エクステリアにおける BMW iX モデルの特徴的なデザインのサイド・ウインドウからリヤ・エンドにかけての部分は、より進化したフォルムとなっています。リヤに向かって徐々に細くなるウインドウ形状と前傾した C ピラーが、シルエットのダイナミックなラインの流れを強調しています。「ストリーム・フロー」として知られている収束するラインは、ボディ側面の空気の流れを象徴しています。この特徴的なグラフィックは、BMW iX ではリヤ・サイド・ウインドウとリア・ウインドウとの間をつなぐブラック・サーフェスとなっており、ここにはモデル名「iX」が刻印されています。

同一平面に一体化されたドア・ハンドルとフレームレス・ウインドウ

BMW iX のクリアなプロポーションは、このクルマを横から見たときに特に効果的に見えます。ドアのデザインによって、ボディの力強い印象が強調されています。このクルマは数少ないキャラクター・ラインでサーフェスを区切っており、そのためひとつひとつのサーフェスが大きく取られています。ボディと面一になるよう一体化されたドア・ハンドルは、コントラスト・カラーで仕上げられています。ボタンを押すだけで操作できる電動式ドア・オープナーとオプションのソフト・クローズ機能により、快適に乗り降りができます。ドア・ハンドルに内蔵された間接照明が、高級感を演出します。オプションの最新世代のコンフォート・アクセス・システムは、所有者が車両に近づくか、あるいは離れると自動でドアをロック解除／ロックします。ドア・ロック操作のための信号は、無線リモート・コントロールまたは BMW デジタル・キーから（所有者のスマートフォン経由で）車両に転送されます。

BMW で初めて、ラージ SAV のドアにフレームレス・サイド・ウインドウを採用しました。これは従来の BMW ではクーペにのみ採用されてきた構造ですが、これにより BMW iX のスポーティなキャラクターを強調し、サイド・ウインドウのデザイン全体の流れるような外観を実現しています。ハイグロス・ブラックの B ピラー・トリムは、ボディ・カラーとの魅力的なコントラストを成しています。遮音性を改善するため、ドア周りは 3 層式の密閉構造となっています。

空力的に最適化されたドア・ミラー、ブラックのボディ・エッジング

BMW iX の革新的なデザインのドア・ミラーは、風切り音を低減させ、空力特性と全方位の視界を向上させます。極めてスリムなミラー脚部はサイド・ウインドウ・フレーム下部に直接取り付けられており、これにより従来はサイド・ウインドウ前端に設けられていた三角形のミラー・ベースが不要になりました。ミラー・キャップはボディ・カラーに塗装されており、ミラー脚部に繋がる部分はハイグロス・ブラックで縁取られ、魅力的なカラー・コントラストを成しています。スリムな形状のミラーと正確に設定されたエアロ・リップが、風切り音の軽減に寄与します。ドア・ミラーに一体化された幅わずか約 2 ミリメートルのガラス・カバー内側には、調和のとれたシグナルを発するターン・インディケーターが内蔵されています。

従来の BMW X モデルでおなじみのデザインの特徴として、ボディ下縁に帯状に配されたブラック・サラウンドがあります。BMW iX ではさらに上方へと伸び、フロント・エプロンからサイド・セクションを経てリヤ・エンドまで車両全体を囲む帯状のラインとなっています。充電用のコネクタは従来のガソリン・エンジン搭載の BMW モデルでフィラー・ネックがある位置に配置されており、右リヤ・ホイールハウス上部のフラップ内にあります。

リヤ・エンド：モダン、ミニマリスティック、豊かな表現力

リヤ・エンドのデザインにも、正真正銘 BMW iX のキャラクターが反映されています。ゆったりとしたサーフェス構成の現代的かつミニマリスティックなデザインは、BMW iX のとりわけ力強いボディと幅の広さを強調する豊かな表現力を生み出しています。継ぎ目やキャラクター・ラインの少ないミニマリスティックなデザイン言語により、明確かつ上質感のある風貌を実現しています。リヤへと流れるルーフとリヤ・エプロンのディフューザー・エレメントによって、BMW iX の空力特性はさらに最適化されま

す。テールゲートは継ぎ目なくリヤ・エンドの横幅一杯に広がり、それにより表情豊かなサーフェス構成を強調しています。リヤ・ビュー・カメラはテールゲート中央に配置された大きな BMW ロゴの黒いリング部に目立たないように組み込まれています。中央部のエンブレム内にカメラ・レンズの自動クリーニング・システムが内蔵されており、必要なときにエンブレムが突出してウォッシャー液を噴射して洗浄します。

表情豊かな光の演出を備えた極めてフラットなテールライト

一体構造のテールライトは、サイド・セクションにまで回り込んでいるテールゲートと調和しており、ヘッドライトと同様にこのテールライトも、これまでの BMW グループの量産車としては最もスリムな形状になっています。すべてのライト機能に LED を使用しています。その光源は 3D モデリングされたレンズ・カバーに直接内蔵されており、極めて表情豊かな光の演出を行います。BMW の特徴的な L 字型テールライトは、現代的な解釈によってテールライトとブレーキ・ライト共通のライト・ストリップに反映されており、同じく水平配置された、作動させているときだけそれとわかるターン・インディケータを取り囲むように配置されています。

バックアップ・ライトとリヤ・フォグ・ランプは、リフレクターと共に極めてスリムなストリップとしてリヤ・エプロンのディフューザーに組み込まれています。さらにテールゲートを開けたところにも左右に配置されたセカンダリ・ライト・ユニットがあります。ここにはターン・インディケータ、テールライト、ブレーキ・ライトが一体化されており、テールゲートを開けた状態でも該当する光信号が確実に認識できるようにしています。

エクステリアの「シャイ・テク」：テクノロジーを控えめに統合

BMW iX は、インテリジェンス・パネルの役割を担う BMW キドニー・グリル以外にも、単調な走行状況や視界の悪い状況でドライバーを支援するためドライバー・アシスタント・システムが使用するカメラやセンサー類が、「シャイ・テク」の原則に従って目立たないように配置されています。例えばフロントとリヤのブラックの帯の中には、距離測定用センサーが目立たないように組み込まれています。

同一平面に一体化されたドア・ハンドルも、テールゲートの BMW ロゴにクリーニング・システムとリヤ・ビュー・カメラが内蔵されているのも、いずれも「シャイ・テク」の原則の一例です。その基本となる原則は、テクノロジーは陰に控え、その機能を使用するときに初めて姿を現すというものです。

BMW i ブルーはサステナビリティを表すアクセント

BMW iX は BMW i の特徴であるブルーを基調とした多くのデザイン・アクセントを採用しており、これにより電気駆動システムと持続可能な車両コンセプトを暗示しています。ボンネットとテールゲートの BMW ロゴ外縁に付されたブルーのリングに加えてバンパー外側にもブルーのアクセントが配されており、フロント・エンドの空気の流れが最適化されていることを視覚的に強調しています。サイド・スカートブルーのアクセント・ストリップは、BMW iX の高電圧バッテリー・システムがフロアの低い位置に搭載されていることを暗示しています。

標準仕様では、リヤ・エプロン下部のブラックで塗装された部分の左右外側に2つのブルーのトリム・エレメントが配されています。このトリム・エレメントは分離配置されたライト・ユニットとディフューザー・エレメントの境界を示しており、BMW iX の優れた空力特性と電気駆動システムの両方を強調しています。従来モデルではエグゾースト・テールパイプが配置されているこの部分は、持続可能なモビリティを象徴するシグナルを発しています。

表情豊かな個性：スポーツ・パッケージおよび BMW Individual エクステリア・ラインのチタン・ブロンズ

BMW iX は、オプションでスポーツ・パッケージを提供します。電気のみで駆動される SAV の初公開時には、豊富なエクステリア・カラーの中からカシミア・シルバー・メタリックと、BMW Individual ペイント・フィニッシュのアヴェンチュリン・レッド・メタリック仕様にスポーツ・パッケージを組み合わせたモデルが登壇しました。

スポーツ・パッケージは、この電気駆動の SAV に表情豊かな風格をもたらします。フロント・ビューでは、3つの特大エア・インテークによるクラシックなイメージを新しい解釈で採り入れています。フロント・エプロン外側に配置された大きな三角形のシールドは空気の流れをエア・カーテンの方へ向け、これにより車両の周囲と内部を流れる気流を最適化します。

ボディ下縁部、特別な形状のサイド・スカート、一体型ドア・ハンドルはハイグロス・ブラック仕上げになります。ボディを囲むように巡らされていたブラックの帯は、フロント・エプロンもリヤ・エプロンも中央部がボディ同色で塗装されています。リヤ・エプロン下部のディフューザー・エレメントの縁取りは、標準仕様のブルーに代わってボディ同色仕上げになります。その他、スポーツ・パッケージ特有の仕様として、スモーク・ガラス・レンズを採用した専用テールライトがあります。空力的に最適化された21インチ・ダブル・スポーク・デザインのアロイ・ホイール、ミッドナイト・グレーか、あるいはスポーツ・ブレーキ・システムを装備した場合はブルーに塗装されるブレーキ・キャリパーも、BMW iXのスポーツ・パッケージに含まれます。

オプション装備としてBMW Individual エクステリア・ラインのチタン・ブロンズが提供されており、これにスポーツ・パッケージを組み合わせると、厳選されたカラー・アクセントと共にエクスクルーシブなオーラを放つBMW iXが完成します。BMW キドニー・グリルの立体的なパターン、ドア・ハンドル、Dピラーまで続くサイド・ウィンドウ・フレームの下部、リヤ・エプロンの左右にあるインサートもチタン・ブロンズ仕上げになります。こうして、どこから見てもモダンで高級感あふれる洗練された印象を醸し出します。

エアロダイナミクスとインテリジェント・ライトウェイト構造

フォルムと構造に見る革新性

BMW グループは長年にわたり「エフィシエント・ダイナミクス」を追求し、道路交通における燃費と排出ガスの削減に大きな効果を発揮してきました。BMW iX のキャラクターを特徴付けるこの戦略には、ずば抜けて効率的な電気駆動システムだけでなく、空力特性や車両重量を最適化するための包括的対策が含まれています。空気抵抗の低減やインテリジェント・ライトウェイト構造は、電気のみで走行する SAV の航続距離を延ばすために貢献します。

走行特性やインテリアの快適性のレベルも、空気抵抗の低減やアルミニウム製スペース・フレームおよび革新的なカーボン・ケージを備えたボディ構造の恩恵を受けています。気流を正確に導くことで BMW iX の走行音をさらに低減できます。A ピラーの位置は、従来のガソリン・エンジンを搭載した BMW X モデルよりもさらに前方になりました。また eDrive 駆動システムの極めてコンパクトなデザインにより、結果として車両前部が縮小され、BMW iX のインテリア・スペースにとって更なる恩恵をもたらしました。このセグメントのクルマとして特にユニークなのは、異なる素材をそれぞれ理想的な場所に使用してその特性を発揮させるインテリジェント・マテリアル・ミックスの採用です。高張力鋼、アルミニウム、熱可塑性プラスチック、カーボン・ファイバー強化プラスチック (CFRP) を目的に合わせて使用することで、軽量化と極めて剛性の高いボディ構造を実現しました。優れた空力特性とインテリジェントな素材利用の組み合わせが BMW iX の驚くほど静かでリラックスしたハンドリングを実現し、同時にアクセル・ペダルやステアリング・ホイールのあらゆる動きに対して自発的な、かつ正確な反応を実現しています。

空力特性を最適化して航続距離を延長

オール・エレクトリック・ドライブがもたらすベネフィットをフルに活用し、実績ある対策を包括的に実装することで BMW iX の空力特性を最適化し、このオール・エレクトリック SAV の走行性能のみならず航続距離にとっても有利な効果をもたらします。新しいデザイン言語によって実現された極めて滑らかなボディ表面仕上げに加えて、くさび形のグリーン・ハウス、同一平面に一体化されたドア・ハンドル、極めてスリムなドア・ミラー、正確に設定されたエアロ・リップなども含め、多くの対策により空気抵抗を低減させています。その結果、BMW iX は同セグメントでも傑出した数値である Cd 0.25 という空気抵抗係数を実現しました。

フロント・エンドやアンダー・ボディ、リヤ・エンド、ホイール周りに施されたモデル独自の空力対策だけで、65 キロメートル以上も航続距離を延ばすことができます。その延長分のうち約 25 キロメートル相当が、必要に応じてフロント・エンドのドライブ・ユニットとブレーキ・システムに冷却用エアを供給する第 3 世代のアクティブ・

エア・フラップ・コントロールによるものです。通常の走行状態であれば、BMW キドニー・グリルとフロント・エプロン下部のエア・インテークは完全に閉じています。この状態では車両周囲を流れる気流を乱すことがないため、空気抵抗は大幅に低くなります。電子制御エア・フラップは、大量の冷却用エアが必要な場合にしか開きません。このフラップを段階的に調整することで、慎重に計算された量の冷却用エアをブレーキ・エア・ダクトや駆動系のコンポーネントに効率的に送ることができます。

スポーツ・パッケージ装着車の場合、ほとんど閉じたままのエア・フラップを補うため、フロント・エプロン外側には正確に定義された開口部が用意され、車両周囲の気流を最適化しています。この垂直に配置されたエア・カーテンは、通常ならばここで発生する乱気流を回避するため、ホイール表面に沿うように気流を導きます。さらに後方に向けて先細りになるグリーン・ハウスとモデル独自のエア・デфлекターを組み合わせにより、車両後部へと流れる空気の流動抵抗を低減させています。リア・ウィンドウの左右に垂直配置されたエア・ブレードとルーフ・スポイラーは、シャープなエアロ・リップによって効果的に気流を引きはがし、車両後方の負圧の発生を最小限に抑えます。エア・カーテンとエア・ブレードによる空力効果は、最大で約 15 キロメートルの航続距離延長に相当します。

可能な限りクローズド構造となった BMW iX のアンダー・ボディも、空気抵抗の削減に寄与しています。フロント・アクスルとリヤ・アクスルの間の最も大きなエリアは、車両フロアの低い位置に搭載される高電圧バッテリーのフラットなアルミニウム・ハウジングで覆われています。フロント・エンドの気流は、好ましくない気流の乱れを避けるため、空力的に最適化されたフロー・ガイド・エレメントによってホイールに沿って導かれます。大きなリヤ・アクスル・カバーとリヤ・エプロンに設けられたディフューザーが、車両後部の気流を最適化します。さらにアンダー・ボディのその他すべてのコンポーネントも、空気抵抗への影響に関して綿密に最適化されています。アンダー・ボディ周りの空力対策により、BMW iX の航続距離は約 10 キロメートル相当の延長を実現します。

空気抵抗も重量も低減：エア・パフォーマンス・ホイール

BMW iX は、空力的に最適化されたデザインの 20 インチ・アロイ・ホイールを標準装備しています。大半がクローズド・サーフェスとなったこのホイールは、ホイール周辺での気流の乱れを効果的に抑制できます。エア・パフォーマンス・ホイール（オプションで 21 インチと 22 インチを用意）は、極めて革新的な方法で空気抵抗の低減に貢献します。BMW グループは自動車メーカーとして世界で初めて、空力特性を最適化し、さらに V スポーク・アルミニウム・ホイールのエレガンスを融合させた画期的なホイール・デザインを採用しました。このホイールは、空力特性を向上させるデザインの従来型のアロイ・ホイールに比べて約 15 パーセントも軽量化されており、BMW iX の効率性をさらに向上させます。

エア・パフォーマンス・ホイールは、アルミニウム製ベース・ホイールのスポークの

間にインサートを挟み込んでいます。これにより特に外側表面がフラットなデザインとなり、気流の乱れを大幅に緩和させることができます。エア・パフォーマンス・ホイールの効果だけで、最大 15 キロメートルの航続距離延長に相当します。

ベース・ホイールは、駆動力を伝達するために必要な構造要件を満たすようにサイズが設定されています。また空力的要件を満たすために質の高い仕上がりのインサートが追加されており、さらにホイールをカスタマイズする余地も残されています。BMW iX のオプションとして、21 インチ（3 種類）および 20 インチ（2 種類）のエア・パフォーマンス・ホイールが用意されています。

インテリジェント・マテリアル・ミックス：軽量化と高剛性化のための理想的な組み合わせ

BMW iX のボディ構造に採用したアルミニウム・スペース・フレーム・コンセプトは、同セグメントでは初の試みです。重量を最適化すると同時にボディ剛性と衝突安全性を向上させるため、材料の選択および製造工程は各コンポーネントの要件に合わせて綿密に調整されています。

ホワイト・ボディには、高張力鋼、アルミニウム、カーボン・ファイバー強化プラスチック（CFRP）、高性能熱可塑性プラスチックによる革新的なマテリアル・ミックスを採用しています。BMW iX は、支持構造の革新的なデザインと、その製造過程で使用する幅広い生産技術を通じて異なる材料を目的に合わせて採用しており、その目的のために複数の素材を組み合わせる場合もあります。こうした手法により、自動車部門のインテリジェント・ライトウェイト・デザインの分野における BMW グループの比類ない専門技術を実証しています。

カーボン・ケージ：数値化が可能で目に見えるライトウェイト構造

BMW iX のパッセンジャー・セルにおけるセーフティ・コンセプトの中心的な要素はボディのサイド、ルーフ、リヤの各部に採用している極めて軽量かつ極めてねじり剛性の高いカーボン・ファイバー強化プラスチック製コンポーネントであり、軽量化と同時に俊敏な走りにも貢献します。サイド・フレーム、レイン・ガター、ルーフ・フレーム、カウル・パネル、リヤ・ウインドウ・フレームの CFRP コンポーネントは、BMW iX のボディに初めて採用されたカーボン・ケージを構成します。BMW グループは、とりわけ BMW i や現行の BMW 7 シリーズの生産で培ったこの軽量ハイテク素材に関する長年の加工経験を活かした CFRP の使用を目標としており、重量を最適化しながらボディ剛性を向上させています。カーボン・ケージは BMW 7 シリーズに採用したカーボン・コアをさらに発展させたもので、このハイテク素材の魅力的な特性を視覚的にも確認することができます。

CFRP 製の軽量なサイド・フレームの採用により、従来のスチール製コンポーネントと比較して数キログラム軽量化されます。カウル・パネルとリヤ・ウインドウ・フレームは全く新しい方法で長繊維強化熱可塑性プラスチック（CFRTP）から製造されてお

り、特に効果的な軽量化を実現しています。革新的な材料の組み合わせにより極めてスリムな形状を実現しており、インテリアの広々とした感覚をさらに高めます。また、コントロールユニット、ウォッシャー液供給ライン、ワイヤ・ハーネス用のブラケットを組み込むことも可能です。CFRTP 構造は、剛性を高めながら、スチール製と比べて約 5 キログラムの軽量化を実現しています。

サイド・フレームとリヤ・エンドに CFRP を使用することで、BMW iX の視覚的なアクセントにもなっています。エントランス・エリアやテールゲートを開けたときに、カーボン・コンポーネント特有の繊維構造がはっきりとわかり、ハイテク・キャラクターをさらに印象付けます。またカーボン・ファイバーを何層も重ねて配置することで、立体的な印象をもたらしています。

インテリア・デザイン

生活の質を高め、健康で安心な状態を
愉しむため、より大きなスペースを確保

「私たちは、BMW iX のデザインを徹底的に追求しています。特に重視したのは、広々とした空気感を持った、現代的で、居心地が良く、ミニマリスティックなインテリア・デザインでした。」BMW チーフ・デザイナーのドマゴイ・デュケッツはこのように説明しています。

広々とした空間、厳選された上質な素材の組み合わせ、新開発のシート、そして極めて大きなパノラマ・ガラス・ルーフが、BMW iX のインテリアの5つすべてのシートに上質なラウンジの雰囲気をもたらします。BMW iX のキャビンのまったく新しいアーキテクチャーが、ドライバーとパッセンジャーのニーズと感情を中心に据えた明確でわかりやすい機能性を支えています。このクルマのドライブ・コンセプトによりセンター・トンネルのないオープンな空気感が強調され、前席および後席の足元はさらに広くなり、収納のための十分なスペースと上質な家具のようなデザインのセンター・コンソールを生み出しました。

人間を中心に据え、インテリジェント・テクノロジーは陰に控える

BMW iX に採用したテクノロジーは入念に展開されており、必要なときだけその機能を発揮します。そのため複雑になり過ぎず、直感的に使用できます。インテリアのデザインは安心感と信頼感を与えるもので、乗員とクルマとの間に新たな連帯感を生み出します。

操作系のすべてのディスプレイは必要不可欠なものに絞り込まれているため、すっきりとしたキャビンの居心地の良さをさらに増幅します。インテリアにおけるシャイ・テクの事例は、見えないように配置されたスピーカー、繊細なデザインのエア吹出し口、暖房機能が組み込まれたトリム表面、そしてほとんど見えないようダッシュボードに埋め込まれた BMW ヘッドアップ・ディスプレイのプロジェクターなどに見ることができます。六角形のステアリング・ホイール、ロッカー・スイッチ式のギヤ・セレクター、そして次世代 BMW オペレーティング・システムの一部を構成する湾曲した BMW カーブド・ディスプレイが未来志向の駆けぬける喜びの姿を示唆しています。

明確な面構築で広々とした空気感

BMW iX のインテリアは、前席も後席も現代的な上質感を特徴としています。ミニマルなデザイン言語と明確な面構成が、とりわけ広々とした空気感を生み出します。ドア・トリム・パネルは、色と素材の違いを斜めに分割した幾何学的デザインで表現しています。

室内側ドア・ハンドルは、斜めに配置されたアクセント・ストリップに調和するよう

に一体化されており、そこには電動式ドアのオープン・ボタンが配置されています。フロント・ドア・トリム上部には、シートの形状にデザインされたシート調整用ボタンがあり、そのすぐ隣にはシート・メモリー機能のボタンが並んでいます。助手席側ドアのアームレストには、さらに携帯電話の収納スペースがあります。ドア・トリム・パネルのファブリックの下に埋め込まれたオーディオ・システムのミッドレンジ・スピーカーは、見えないように配置されながらドライブの歓びに大いに寄与します。

新開発の一体型ヘッドレスト付きシート

オプション・トリムの「ロフト」を装備すると、上質なテキスタイルとマイクロファイバー・クロスの組み合わせによる素材とカラーが互いに斜めに分割されたパターンとなります。左右非対称のデザインに、部分的に3角形、4角形、5角形のパターンを描くステッチが施され、モダンな雰囲気を生み出し、さらにシート表面のアクセントにコントラスト・カラーのステッチが施されます。その他の装備バリエーションとして、センサテックおよびエクスクルーシブ・ナチュラル・レザーから選ぶことができます。

シートおよびダッシュボードに使用しているレザーの表面仕上げには、天然のオリーブの葉の抽出物を使用しています。そのため製造時に環境に悪影響を及ぼす恐れのある残留物を一切排出しません。このレザーはとりわけ高級感があり、自然な風合いが活かされています。持続可能性を重視した原材料の選択および生産のための総合的なコンセプトには、ドア・トリム・パネル、シート、センター・コンソール、フロア・パネルの表面にFSC認証を受けた木材を使用することや、高い割合でリサイクル・プラスチックを使用することが含まれます。

運転席と助手席には新開発のヘッドレスト一体型シートを採用し、スポーティな印象をもたらしています。BMWグループのモデルで初めて、オプションでスピーカーを内蔵したシートを用意しました。ヘッドレストおよび腰部のシート生地の下に音源を配置したことで、BMW iXでの強烈なサウンド・エクスペリエンスを実現しました。これもインテリアにおけるシャイ・テクを活用した一例です。シートには、電動調整機能の他に、シート・ヒーター、ベンチレーション・シート、マッサージ機能などがオプション設定されています。シート・ベルトの配色は、ブラックまたはBMW iブルーのどちらかから選ぶことができます。

ラウンジの雰囲気を漂わせる後部座席

後席のベンチ・シートは3名用に設計されています。左右外側のシートには、ヘッドレストが一体化されています。中央座席のヘッドレストは、後方の視界を最適化するため折りたたみ式です。センター・トンネルがないので、2列目のシートも広々としたレッグルームが確保されています。こうして生み出されたオープンな空気感とドア・エリアまで達するワイドなベンチ・シートによって、ラウンジの雰囲気と長距離走行の際の快適性がさらに強調されます。後席乗員は、コート・フックやフロント・シートに一体化された個人用のタブレット端末を固定するためのトラベル&コンフォー

ト・システムを利用できます。フロント・シートのヘッドレストには、USB C ソケットが2個内蔵されています。

後部座席にもオプションでシート・ヒーターとヘッドレスト内蔵スピーカーを装備できます。また後席バックレストは40：20：40の分割可倒式です。必要に応じて背もたれを折りたたむことで、広々としたラゲッジ・ルームをさらに拡張することができます。

フラットなダッシュボード、自立型のBMWカーブド・ディスプレイ

BMW iXのフラットなダッシュボードは、現代的で広々としたインテリアの雰囲気を生み出すのに寄与しています。ダッシュボードの表面はセンサテックが標準装備されており、オプション装備としてマイクロファイバー製または天然のオリーブの葉の抽出物でなめし加工されたナチュラル・レザーが用意されています。ロフト・ストーン・グレー仕様では、表面の明るいエリアから暗いエリアへの微妙なグラデーションが、軽量構造の印象を強調します。

ダッシュボードは前方に向かって上昇する傾斜が付けられており、iXに搭載された未来的でグループ化されたフル・デジタル・ディスプレイのための完璧なステージとなっています。市販モデルとしては初登場の「BMWカーブド・ディスプレイ」は、乗員からは見えにくいような支持構造で固定されているため、コックピット上に浮遊しているように見えます。ディスプレイには、マグネシウム製ハウジングとフレームレスの一枚ガラスを採用しています。また、反射防止ガラスを使用した高品質な表示技術により、従来、日差しを遮るために装着されていたフードが不要となり、コックピット周りの外観が格段にすっきりと風通し良くなりました。

「BMWグループが初めて導入するモデルBMW iXは、現行モデルのディスプレイよりもはるかに大きく鮮やかな高解像度のカーブド・ディスプレイが印象的です。」BMW AGで開発担当取締役を務めるフランク・ウェーバーはこのように語り、さらに「つまり、BMW iXのインテリアは将来のBMWモデルのコックピット・デザインの方向性を示しています。」と続けました。

この湾曲した一体型ディスプレイはBMWモデルのコックピット・デザインにおける中心的な操作部として、伝統的なドライバー・オリエンテッドの考え方をより発展的に新解釈したものです。これは、12.3インチのインフォメーション・ディスプレイと対角14.9インチのコントロール・ディスプレイの表示領域を合体させ、ドライバー・オリエンテッドな1つのディスプレイ・ユニットになっています。この連結されたドライバー指向のディスプレイは、情報の表示方法を最適化し、ディスプレイの直感的なタッチ操作をさらに容易にします。またコントロール・ディスプレイの表示領域も、乗員から見やすく、操作しやすくしています。

BMW iXに搭載されたカーブド・ディスプレイは、次世代のBMWオペレーティング・

システムと連携してまったく新しいグラフィック・エクスペリエンスを提供します。メーター・パネルには、完全にカスタマイズ可能な新しいディスプレイ・オプションが用意されており、ドライバーは目の前の状況に合わせて正確な情報を得ることができます。音声入力またはタッチ・コントロールによる極めて直感的な操作により、ドライバーは BMW iX に搭載された追加のインテリジェント機能を簡単かつ安全に操作することができます。これにより、BMW のディスプレイとオペレーティング・システムの使い勝手の良さは一段と高まっています。

「自動車業界の中で、当社のシステムのように簡単かつ安全に操作できるユーザー・インターフェースはありません。」フランク・ウェーバーはこのように語り、さらに「BMW iX の新しいデジタル・プラットフォームと次世代 BMW オペレーティング・システムによって、操作システムは新たな高みへと到達しました。」と続けました。

センター・コンソールに新デザインの操作パネル

カーブド・ディスプレイの位置とそのテクノロジーは、タッチスクリーン機能を集中的に、かつ直観的に使用できるように最適化されています。しかし、BMW iX の iDrive メニューに用意されたすべての機能は、センター・コンソールに配置されたコントローラーで選択して起動することもできます。このコントローラーはセンター・コンソールにおける重要な操作部となっており、その配色や厳選された素材によって、快適性の高いフロント・シートの上に置かれた上質な家具の一部のような外観となっています。

コントローラーは、ハイグロス・ブラックのフレーム、ガラス・エフェクトのサーフェス、ホワイトのバックライトを備えたボタンを配置した上品なデザインの操作パネルに囲まれています。この操作パネルのその他のデザインもシャイ・テックの原則を明確に示しており、必要不可欠なものだけに絞り込んでいます。従来の操作ボタンの代わりに、フィーラー・バーで分けられ、アクティブ・ハプティック入力（触覚でフィードバックする）機能を備えた操作パネルを使用して、iDrive のメニューや走行モードなどの機能を選択します。BMW iX のためにデザインされた極めて上質なガラスのような外観のタッチ・コントローラーは、ゴールド・ブロンズに塗装されたベゼルで囲まれています。ローラー式のボリューム・コントロールで、オーディオ・システムの音量を調整することができます。スタート／ストップ・ボタンは、BMW i の象徴であるブルーのイルミネーションで照らされ、オール・エレクトリック・ドライブ・システムの存在を誇示しています。スタート／ストップ・ボタンと電気機械式パーキング・ブレーキ・スイッチの間には、従来のセレクター・レバーの代わりに新たに考案されたロッカー・スイッチが配置されます。

オプションで、コントローラー、ギヤ選択用ロッカー・スイッチ、ローラー式ボリューム・コントロール、シート調整用のボタンをポリッシュド・クリスタル仕上げにすることもできます。クリア&ボールド仕様には、FSC 認証材を使用した操作パネルが追加されます。このオープン・ポア仕上げされたウォールナット製パネルにも、バッ

クライト付きボタンが装備されています。

センター・トンネルの廃止に伴い拡大した空間を利用して、センター・コンソール周りに収納が追加されます。センター・コンソールの下に2つのカップホルダー、非接触充電機能付きスマートフォン・トレイ、12V電源ソケットと2つのUSB-Cソケットが装備されます。

センター・コンソールのアームレストは、オプションでヒーターを装備できます。このアームレストのリッドはバタフライ式に開き、その下に広々とした照明付きの収納部が現れます。センター・コンソールの後端には、ハイグロス・ブラックのトリムが装着された後席用エア吹き出し口があります。選択したオプション装備品に応じて、後席用シート・ヒーターや後席用に独立したエア・コンディショナー用スイッチもここに配置されます。

初登場：BMW iXの六角形のステアリング・ホイール

BMWグループのモデルとして初めて、BMW iXに六角形のステアリング・ホイールを装備しました。多角形の形状は、自動運転と自らのハンドル操作を切り替えて使うのに最適なデザインです。さらに、レーシング・マシンから着想を得たユニークな形状は、乗降時やシートの座り心地を向上させる効果もあります。また六角形のデザインは、その背後にあるカーブド・ディスプレイの表示を見やすくします。ステアリング・ホイールの六角形は、走行に関連するすべての情報を集中的に認識するためのフレームワークを形成します。

ステアリングの操作パネルに装備された上品なガラス・エフェクトのマルチ・ファンクション・スイッチは、オーディオや通信機能、ドライバー・アシスタント・システムの起動を最適化し、直感的に操作できます。またBMW iXは、BMWで初めて3段階の調節が可能になったステアリング・ホイール・ヒーターをオプション設定しました。

フレームレス・プロジェクター内蔵のBMWヘッドアップ・ディスプレイ

最新世代のBMWヘッドアップ・ディスプレイは、BMW iXで運転に集中するためのさらなる支援を提供します。今回初めて、BMWヘッドアップ・ディスプレイのプロジェクターがフレームレスタイプとなり、見えないようにダッシュボードの表面にフラットに一体化されています。このプロジェクターは、運転に関連する情報を、図形情報としてフロント・ウインドウのドライバーの視野内に直接投影します。これによりドライバーは道路から注意をそらすことなく、すべての重要な情報を把握できます。BMWヘッドアップ・ディスプレイに表示する情報には、車速、その時点で有効な速度制限、追い越し禁止、チェック・コントロール・メッセージ、ドライバー・アシスタント・システムの状態や警告、ナビゲーション・システムの詳細なルート・ガイダンスや右左折の指示、電話やエンターテインメント・リストなどが含まれます。表示の角度、高さ、明るさは個別に調整可能です。

ヘッドアップ・ディスプレイとカーブド・ディスプレイのグループ化されたフルデジタル表示の組み合わせは、人間工学、快適性、安全性、ドライビング・プレジャーの観点から、あらゆる走行状況に適した情報を伝えるための理想的なコンセプトです。BMW iX では、ドライバーが車両前方の約3メートルの位置に投影されたグラフィックがあると認識できるように設計しています。この投影距離は通常の運転状態でドライバーが目の焦点を調整することなく見られる位置なので、情報取得の快適性を最大限に高めます。

新しい操作方法とナノファイバー・フィルターを採用したオートマチック・エア・コンディショナー

BMW iX には、2.5ゾーン・オートマチック・エア・コンディショナーが標準装備されています。さらにオプションとして、運転席と助手席だけでなく後席の左側と右側の温度と送風を独立して調整できる、4ゾーン・オートマチック・エア・コンディショナーも用意されています。どちらの仕様でも、インテリア・デザインにおけるデザイン言語を減らし、テクノロジーを最適化することで快適な操作性と暖房や冷房の際の集中的な制御を実現し、これまで以上に快適になっています。革新的なナノファイバー・フィルターの採用により、室内の空気の清浄度が向上します。また、BMW iX には、パーキング・ヒーターおよびパーキング・エア・コンディショナー機能も標準装備されています。

エア吹き出し口は、足元用とフロント・ウインドウ用は見えない位置に配置され、またダッシュボード周りに配置されたゴールド・ブロンズのサラウンド付きの極めてスリムな吹き出し口は、目を引く視覚的なハイライトにもなっています。ダッシュボードの中央部には水平配置の、また外縁部には垂直配置の吹き出し口があります。センター・コンソールの後端とBピラーには、後席エア・コンディショナー用の吹き出し口があります。ここで送風の向きや強さを手動で調整することができます。BMW iX は、室内の暖房を支援するため、BMW で初めてダッシュボード、グローブ・ボックス、ドア・トリム・パネル、センター・アームレスト、ステアリング・ホイールに効率の良いサーフェス・ヒーターをオプション設定しています。

BMW iX に採用した革新的なナノファイバー・フィルターは、車内の空気を清浄に保つために極めて効果的です。ナノファイバー・フィルターは、超微粒子に加えて特定の微生物粒子やアレルゲンが侵入するのを防ぐことができます。ナノファイバー・フィルターは通常のフィルターよりも目が細かく、内気循環モードにすると数分間で車内の空気から事実上すべての粒子を除去します。また、ドライバーは「My BMW」アプリを使用して、走行を開始する前にエア・コンディショナーの換気機能を作動させ、車内の空気を素早く徹底的に浄化することができます。

車内の照明にLEDを使用

BMW iX の車内の照明は、すべてLEDユニットになっています。すべての操作部はホワイトのバックライト照明が付いているので、夜間でもスイッチの場所がすぐにわか

ります。カーブド・ディスプレイの調和のとれたナイト・デザインと、色付きの室内照明がラウンジのようなゆったりとした雰囲気醸し出し、また LED を数多く装備しているため昼間でもはっきりと確認することができます。インテリア・ライトはドア・トリム・パネルの広々としたサーフェスとくっきりとしたラインを強調すると同時に、足元やエントランス周りを間接的に照らします。

エレクトロクロマティック・シェーディングを備えたパノラマ・ガラス・ルーフ
BMW iX には、オプションでパノラマ・ガラス・ルーフが用意されています。一枚ガラスのルーフにはクロス・ストラットが一切なく、視界を遮ることなく頭上全体に広がっています。このガラス・ルーフは、BMW グループのモデルに装着されるものとしては最大の面積を誇ります。パノラマ・ガラス・ルーフは、BMW iX の広々とした感覚とラウンジ・スタイルの雰囲気をさらに盛り上げると共に、ルーフ内張が不要となるため、頭上の空間を最大限に確保できるという利点もあります。このガラス・ルーフにはエレクトロクロミック・シェードを採用しており、ボタンを押すだけで作動して直射日光から室内を保護します。

このパノラマ・ルーフは、スチール製のフレーム、2枚のガラス・パネルと、それらを挟み込む3層のフィルムで構成されており、ラミネート加工されたガラスは紫外線を効果的に遮断し、また優れた音響快適性を提供します。室内の快適性は、アッパー・ガラス・パネルのトリプル・シルバー・コーティングによって保証されています。

室内空間を直射日光などから護るため、ルーフ・ライナーの代わりに自動車業界では世界的にも稀な PDLC（高分子分散液晶）技術を導入しました。パノラマ・ガラス・ルーフの透明度は、中間層のフィルムに電圧をかけることで変化します。ポリマー・マトリクスの中に液滴状で分散された液晶は電気エネルギーによって均等に整列し、光を室内へ通過させます。非通電時には液晶は無秩序に分散し、シェード効果を発揮します。このエレクトロクロマチック・シェーディング機能は、パノラマ・ガラス・ルーフ前面のボタンでオン/オフを切り替えることができます。BMW iX を駐車すると、自動的にシェーディング・モードが作動します。

画期的なサウンド・エクスペリエンス：4D オーディオ機能を備えた Bowers & Wilkins サラウンド・サウンド・システム

BMW iX のオーディオ・システムは、12基のスピーカーと205ワットのパワー・アンプを備えた HiFi サウンド・システムが標準装備されています。オプション装備として、モデル専用の Harman Kardon サラウンド・サウンド・システムを用意しており、7バンド・イコライザー、出力655ワットのアンプ、iX のダイナミックなパフォーマンス・レベルに合わせてサウンドを調整する機能により、全てのシートで最高の音質を楽しむことができます。サラウンド・サウンド効果は、5基のミッドレンジ・スピーカーと5基のツイーターと、それらを補完する後席ヘッドレスト内蔵の4つのスピーカーによる合計18基のスピーカーで生み出されます。BMW モデルに初めて採用された後席シート下に配置された2つのセンター・ウーファーと2つのサブウーファーの組み合わせ

せにより、迫力あるサウンドをもたらします。このシステムのツイーターには高品質のパンチング・メタル・パネル製グリルが付いており、ミッドレンジ・スピーカーはドア・トリム・パネルの生地の下に隠されています。

BMW iX の車内にコンサート・ホールの雰囲気醸し出す Bowers & Wilkins サラウンド・サウンド・システムの新バージョンが初めてオプション設定され、オーディオ・エクスペリエンスは新たな次元に到達しました。このフル・アクティブ・サウンド・システムには、7バンド・イコライザー、マイクロホンを利用して iX のダイナミックなパフォーマンス・レベルに合わせてサウンドを調整するダイナミック・サウンド・コントロール、5つのサウンド・モードが用意されています。この革新的なシステムは、合計 30 基のスピーカーと 1,615 ワットのアンプ出力により、極めて鮮やかで臨場感あふれるサウンドを生み出します。前席および後席のヘッドレストには 8 基のスピーカーを内蔵し、2 基のダイヤモンド・ツイーター、4 基の 3D スピーカー、そして後席の下に 2 つのセンター・ウーファーと 2 つのサブウーファーを配置しています。また、Bowers & Wilkins のサラウンド・サウンド・システムには、前席シートに内蔵されたシェイカーで体感を再現する 4D オーディオ機能も搭載されています。このシェイカーは、フロント・シートに搭載されたマグネットで振動を緻密に制御しており、小さな音量でも強烈に低音域を感じられます。Bowers & Wilkins サラウンド・サウンド・システムのミッドレンジ・スピーカーは、ドア・トリム・パネルの生地の下に配置されています。ツイーターは、ブラシ仕上げされたステンレス・スチール製ベゼル、高品質なエッチング加工が施されたブランド・ロゴ、繊細な照明付きです。